

うるま市農水産業振興戦略拠点施設事業 かわら版2号

県内先進施設視察

いよいよ、うるま市に農水産物の直売所ができます。

うるま市農水産業振興戦略拠点施設事業、今回は市民の希望者を募り、県内の先進施設2ヶ所の視察です。

まずは沖縄で最も集客力のある直売所、JA ファーマーズマーケットいとまん「うまんちゅ市場」を訪れました。

収穫されたばかりの「新鮮さ」、生産者の顔が見れる「安心感」、産直の「安さ」を売りにしているとのこと、バックヤードには「防除日誌(農薬の散布記録)」や、出荷時の注意点を書いた「バックヤードの心得」など、生産者へもお客様目線の意識付けが徹底されています。

さらに「糸満産野菜の価値を高めるブランディング」や、「現在では市場に出ない昔の野菜の掘り起こし」など、生産物を通じて地域の活性化を図る姿に参加者の関心も高く、案内していただいた浦崎店長へ、運営面や商品への質問が相次いでいました。



次に訪れたのは恩納村にある「おんなの駅なかゆくい市場」です。

恩納村という場所柄から観光客も多く訪れ、さらに最近は大学院大学の開校に伴い、外国人のお客様も増えているとのこと。

「マーケットが変わるたびに売り場のコンセプトを変える」や、「売り場の社員はエンターテイナーである」という、ユニークなコンセプトを説明していただいたのは店長の井染さん。徹底したお客様目線の方針で、運営を心掛けているということです。店員さんの対応や商品近くに置いてあるレシピなどの工夫が、来たお客様を飽きさせない参考になります。さらにこちらはフードコートも充実しており、地魚料理などの地元食材を使用した料理が数多く並んでいました。参加者もうるま市の食材を使って何がつかれるか、話しながら視察していました。

視察終了後はうるま市に戻り、まとめのワークショップです。今回は施設の方向性について話し合いました。

視察直後ということもあり、この事業への参考点や感じたことなど、具体的な意見が参加者から出されていきます。この一つ一つが、コンセプトをつくりあげる上で貴重な意見になっていきます。

市民の意見を取り入れたコンセプト作成。全国的にも稀なこの事業を成功させるため、これからも市民協働でうるま市発展のための施設をつくりあげます。

次回はいよいよ県外先進地視察です。

